

セッション C SAS2・ナルコレプシー（大阪回生病院 睡眠医療センター 谷口 充孝）

C-1 から C-5 の 5 演題の座長を担当しました。前半 3 演題は睡眠中の中枢性無呼吸に関して、後半 2 演題はナルコレプシーの診断に関しての報告で、発表者など 10 数名の参加者と意見を交換しました。

近年、注目されるようになった Complex SAS ですが、この現象の出現から未受診の重篤な心疾患の発見につながったという報告 (C-1)、CPAP の使用が困難な際に出現する場合があります、経過とともに減少する症例も多いという報告 (C-2) は、Complex SAS の臨床を考える上で重要となるはずですが、Complex SAS がみられたら、直ちに ASV 導入を考えるのが、最近の風潮ですが、やはり個々の患者さんに応じて治療は考えられるべきでしょう。

C-3 は、入眠期に中枢性無呼吸を認める 8 歳女児の診断困難例でした。終夜睡眠ポリグラフィでの EtCO₂ が低値であり、中枢性の換気応答の問題が示唆されるのではと考えましたが、小児の症例の診断の難しさを再認識させられました。

また、ナルコレプシー患者の PSG および MSLT に関する 2 演題が報告されました。Narcolepsy with cataplexy の方が、Narcolepsy without cataplexy に比べて SOREMP の出現率だけでなく睡眠潜時の短縮もみられる (C-4)、PSG で定義上は RWA とスコアできる部分が高率に認められたが、RBD で典型例として認識されている RWA と比べると、筋活動抑制はある程度保たれるケースが多いという印象であった (C-5) ということは興味深い知見でした。

少なくとも座長の私自身の勉強となり、刺激になりました。多くの人とも知見を共有するために、発表された全ての方が論文にして下さることを切に望みます。それだけの価値が間違いなくあると感じた報告でした。

演題番号	演題名	演者	演者所属
C-1	CPAP と心臓手術によって治療をおこなった睡眠時無呼吸症候群の一症例	京谷 京子	京谷クリニック
C-2	CPAP 治療下で中枢性無呼吸を呈する閉塞性睡眠時無呼吸症候群の頻度と特徴	岡部 志保	虎の門病院 睡眠センター
C-3	入眠初期に中枢性無呼吸を認める 8 歳女児	宮田 理英	東京北社会保険病院 小児科
C-4	カタプレキシー有無による MSLT 結果の比較検討	藤原 彩加	京谷クリニック
C-5	ナルコレプシー患者における睡眠パラメータの検討	今井 理恵	大阪回生病院 睡眠医療センター